

指定地域密着型サービス外部評価 自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所として一番大切にしていることを理念にしている。	○	「地域の中でその人らしく生活することを支えるケア」の具体的なイメージを持って理念を考えていきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝のミーティング時に必ず全員で唱和し、再認識している。		今後も理念を実践するために継続して実施する。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	施設の中に理念を書いたものを掲示してある。	○	家族会や運営推進会議の時に公表したり、施設の新聞に載せたりして伝えていきたい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩に出た時に近所の方達と挨拶を交わしたり、季節の花や野菜について立ち話をして、近隣の人達となじみの関係を築いている。	○	近隣の人達が気軽に立ち寄れるスペースやそんな雰囲気をつくっていきたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の学校行事の受け入れや地域の行事への参加を積極的に行い、地域と交流ができています。		今後も意欲的に参加できるよう、地域の一員として継続実施していく。文化祭に作品を出している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	イベント開催時に地域住民に呼びかけ認知症の理解や接し方の講座を設けている。	○	催し物がある時は、チラシなどを作り地域に配布したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を皆で考え、サービスの質の向上に努めている。外部評価の結果は皆に周知し、改善に向けて具体的な案を考え実施している。		全員で評価を受け止め、考えることによって評価を活かしている。今後も皆で取り組み、よりよい活動ができるよう活用したい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回の運営推進会議で取り上げられた検討事項や懸案事項について、その経過を報告したり、これまでの評価結果を踏まえ、改善事項も説明し意見交換している。		これまでも運営推進会議や家族会での意見を活かせるよう検討し取り組んできた。これからも取り組んで行くために意見を求めている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険の更新の申請時に市担当者と言葉を交わしている。	○	市担当者との関係を密にとり、事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝えていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見が必要なケースでは管理者が一人で対応するため、他の職員は理解していないのが現状である。	○	勉強会を開き、全職員の理解を深めるよう努力したい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が虐待の防止を意識して毎日の介護にあたっている。	○	高齢者虐待防止法の勉強会を開き、理解の浸透や遵守に努めていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけて丁寧に説明している。医療連携体制については詳しく説明し、同意を得ている。		家族の方に不安のないよう十分な説明を心がけている。安心していただけるようこれからも心配りしたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者から意見や苦情を出しやすいように働きかけている。	○	介護相談員に定期的に来ていただき、利用者の相談にのってもらいたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、家族への手紙か施設の新聞などで報告している。		手紙や新聞で少しでも利用者さまの様子を伝える方法として、今後も継続していく。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には訪問時や家族会などで常に問いかけ何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意している。出された意見要望などはミーティングで話し合い反映している。	○	家族会では職員は席をはずして家族同士で話し合ってもらう時間をとり、代表者の方にその意見を伝えてもらうようにしていきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議を月1回行っており、その時に意見を聞いたり、日頃からコミュニケーションを図りながら会話したりしている。		左記会議だけでなくいつでも意見を聞く姿勢を持っているので、よく話し合っている。今後も継続して実践する。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	日中、急な通院にも対応できる勤務体制になっている。	○	利用者の状態やペースに合わせた勤務体制も考えていく必要がある検討したい。(夜間の入浴など)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者、ご家族への信頼関係を築くためにも馴染みの職員が対応することが重要と考えている。異動や離職がやむを得ない場には引き継ぎを十分に行っている。		利用者様、ご家族との信頼関係や馴染みの関係づくりが一番に考えて職員全員を支援をしている。今後も十分に配慮していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>いろいろな研修になるべく多くの職員が受講できるようにしている。</p>	<p>左記研修の内容を報告し、その内容を職員全員に回覧するようにしている。今後も継続して実践する。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協会に加入し、他施設との交流を通じて意見交換を行い、日々のケアに活かしている。</p>	<p>地域の他施設や、研修先などで得たことを日々職員にも通知し勉強会や意見交換をしている。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>日常、職員のストレスや悩みを把握するよう努めている。時々、親睦を深めるため食事会を開いている。</p>	<p>○</p> <p>職員の疲労やストレスの要因について気を配り、勤務時間中にも気分転換できる休憩室を確保したい。休憩室は確保できている。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者も頻繁に現場に来ており、利用者と過ごしたり、個別職員の業務や悩みを把握している。</p>	<p>運営者はいつでも話を聞くよう努めており、今後も取り組んでいく。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>できるだけ長い時間をかけてその人と関わり、本心から言えるような人間関係を構築している。</p>	<p>その都度、必要に応じた相談をしている。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族の立場に立って話をよく聞き、理解するよう努力をしている。</p>	<p>特に面会時には家族との会話を大切にし、求めていることを理解するよう努めている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の本人の状況や家族の要望を基に何が必要かを見極め対応している。医療保険でのサービス(訪問マッサージ・リハビリ)を受けるようにしている。		今後も継続して実践する。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人がサービスの場に徐々に馴染み、安心して納得して利用できるように家族などにも協力いただいている。		入所前に自宅に訪問したり、見学に来ていただき関係づくりをしている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人が地域の中でその人らしく暮らし続けるように、職員は喜怒哀楽を日々共にしながら生活している。		支援する側、支援される側という意識をもち、お互いが協働しながら和やかな生活ができるように声かけしている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	できるだけ、家族などにも協力していただき、本人を支援していくよう努力している。	○	職員は日々の暮らしの出来事や気づきの情報共有に努め、家族と同じような気持ちで接していきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	疎遠になっている家族などには特に声かけし、本人と関わっていただくようお願いしている。職員が本人の介護で疑問に思ったことなど一緒に考えている。		定期的に家族会を開き、電話などで頻りに連絡を取り本人の日々の様子が分かるようにとりくんでいる。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の民生委員や近所の方に会いに来てもらったり、馴染みの場所へ出かけて行く機会をつくったりしている。		地域の馴染みの店で買い物など支援している。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	職員の声かけにより、利用者が孤立せず共に楽しく暮らせるよう支援している。		お花見や誕生会などホーム全体で何かをする。毎日のレクリエーション活動での声かけをしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	なかなか退所後の対応については、継続的に関わっていないのが現状である。	○	退所後も行事に招待したり、遊びに来てもらうなどの付き合いができるようにしていきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人がその人らしく暮らせるように、本人の意向を聞きだす努力をしている。家族などにも確認して検討している。	○	センター方式を活用し、スタッフ同士が情報の共有をする。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者一人ひとりの歴史やサービス利用に至った経過などを、本人や家族などに聞きながら利用者の理解に役立っている。		家族や本人以外(近所・地域の人)からも、情報を集めケアに生かしている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者の問題点を重視するのではなく、そうならないようにできる力を引き出すようにしている。	○	利用者一人ひとりの生活リズムを理解すると共に、行動や小さな動作から感じ取り、本人の全体像を把握していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護者の立場ではなく、本人の立場に立ったケアについて、職員や家族などで意見を出し合い検討している。担当医師・看護師・マッサージ師などの意見も反映している。		担当者会議での細かなことや問題点を整理し、プランに反映するよう取り組んでいる。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて見直しことはもちろんのこと、本人の状態に応じて見直している。		定期的にカンファレンスを行い日々の暮らしにおいて、利用者一人ひとりの介護計画にそった記録を行っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	7月からセンター方式の個別記録に記入し、日々の特徴・変化を捉え、介護計画の見直しに活かしている。		今後継続して実践する。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族の状況に応じて、通院や送迎など必要な支援を行っている。	○	利用者以外の近隣の高齢者が状況に応じてショートステイやデイサービスの利用をできるようにしていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	時々、地域の民生委員の訪問があったり、ボランティアの協力も得ている。地域の行事などに喜んで参加している。		毎月、民生委員の訪問があり、ボランティアの訪問も利用者の皆様は楽しみにしている。秋の作品展にも意欲的で早くから準備にかかっている。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居前の行きつけの病院などの利用を支援している。また、医療保険で補えるリハビリなどの支援もしている。	○	本人の意向や希望に沿うように、他のサービスを取り入れる。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	2か月に1回の運営推進会議に地域包括支援センターのケアマネジャーが出席しており、色々な情報が得られるようになった。		今後、必要に応じ実施する。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人が馴染みのかかりつけ医を利用していただくよう支援している。緊急時にはその医師に連絡し、指示を受ける体制をとっている。		本人や家族の希望に合わせ、定期的にかかりつけ医の往診ができている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	基本的に認知症専門医の往診を受けてもらっている。また、必要に応じて、専門医に相談し支援している。		今後も継続して実践する。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	定期的に看護職員が勤務し、利用者の健康をチェックし管理をしている。		今後も継続して実践する。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院しても、職員が面会に行ったり、医師との情報交換をしている。		今後も継続して実践する。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	特に終末期のあり方について家族などと十分話し合い、医師にもその旨を伝えている。その上で職員全員がかかわり方について話し合い支援して行くようにしている。		今後も継続して実践する。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	状態を把握しその都度主治医に相談し、指示を受けながら家族と密に連絡を取りチームで支援している。		今後も継続して実践する。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移り住む先の関係者に対して、本人の状況、習慣、好み、ケアの工夫などの情報を詳しく伝え、今までの生活と大きく変化しないようにしている。		今後も継続して実施する。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない		スタッフ会議やミーティングのときに職員の意識向上を図るよう、対応の徹底に努めている。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	○ 日々の暮らしの中でしたいことを言ったり、嗜好品の選択が自由にできるよう対応している。特におやつ時の飲み物など本人の希望をできるだけ聞いて、本人の思いに合わせた対応をしている。	希望の献立や食材選び、昔に食べたおやつ作りをスタッフと一緒に作り食べていただく。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるものの、本人の気持ちを尊重し、できるだけ個別性のある支援を行っている。	利用者、一人ひとりに合わせて支援を行うように努めている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	朝の着替え時、衣類は基本的に本人の意志で選んでもらっている。	本人の馴染みの理・美容院で希望にあった髪型や毛染めをしてもらえるよう支援している。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みの食べ物を聞いて、献立に取り入れている。食事の準備、片付けは利用者と一緒にいける力を発揮していただいている。	食事の準備を楽しみに待っている利用者様や味付けを評価される利用者様がおられ、毎日一緒に行い支援している。今後も実施していく。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	利用者が自宅にいた時と同様に、嗜好品を楽しめるよう配慮している。職員と一緒に買って来たり、家族の方に持って来ていただいたりと支援している。	職員だけでなく、家族の方と出かけられ好みの嗜好品を楽しまれている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を使用し、定期的にトイレ誘導を行い、トイレでの排泄に努めている。		自然排便できるよう、寒天・バナナ・薩摩芋など本人に応じて調整している。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的に入浴日は決めているが、本人の希望や体調に合わせて調整(足浴や清拭など)している。		今後も継続して実践する。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促し、生活のリズムを整えるようにしている。	○	眠れない利用者の方には、夜間の足浴や家で使用していた布団を使用するなど、一人ひとりに応じて安眠への支援をしていきたい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意なことをしていただいたり、お願いできそうな仕事を頼み、感謝の気持ちを伝えている。		今後も継続して実践する。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分の財布にお金を持っており、買い物に出かけた時などに自分で好みの物を買ひ、自分のお金で支払っていただいている。		今後も継続して実践する。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	できるだけ外出の機会(施設の買い物などで外出の機会をつくったり、散歩、場合によりドライブなど)を増やし気分転換を図っている。		今後も継続して実践する。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	遠く場所への外出については、職員のみでは難しいので家族の協力を得ている。		利用者の思いを検討し、家族にも連絡し、実現できるように支援している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の要望に応じて電話の貸し出しを行っている。		今後も継続して支援する
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時間は決めておらず、いつでも訪ねて来ていただけるような配慮をしている。		家族の方以外にもお友達や近所の方などに訪問していただき、電話もかけてきて下さっている。これからも継続して支援していく。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日々の申し送り時などでその日のケアを振り返っている。自覚しない身体拘束が行われていなかったかなどを点検している。		定期的に高齢者の身体拘束に関し検討している。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけずに庭へ自由に出入りできるように配慮している。		利用者が外出したような様子が見られたら止めるのではなく、声かけ、気分転換(お茶などのお誘い)などで落ち着かされている。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者と同じ空間で、記録などの事務作業を行いながら見守りしている。夜間は利用者が見渡せる場所で見守りをし、安全に配慮している。		姿の见えない利用者様の所在の確認を常に実施している。これからも実施する。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	全てを取り除くようなことはせず、利用者には注意を促し見守り対応している。安全確認のために、常に居室など点検確認している。		今後も継続して実践する。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々のヒヤリハット事例を記録し、職員間で情報の共有を行っている。また、今後の予防対策についても検討し、事故防止マニュアルを作成し対応している。		職員間で情報の共有をすることによって、一人ひとりに応じた対応ができています。今後も継続して実践する。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当の実地訓練を行ったり、夜勤時の緊急時対応についてはマニュアル化し、全職員に周知している。		職員で初期対応の訓練を受講している者もいる。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	日頃から訓練を行い、実際起こった時に備えている。		地域の協力体制については自治会にお願いしたり、運営推進会議で協力を呼びかけている。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	起こり得るリスクについては家族などと話し合い、理解を得られるようにしている。		利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて把握し、家族などに説明している。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルサインチェックを行い、異変があった時は直ちに管理者に報告し対応している。どんなに小さなことでも気になったらすぐに対応している。		些細なことでも対応するために、どんなことでも報告があり、速やかに情報を共有し対応できている。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を個別にファイルし、職員が内容を把握できるようにしている。服薬時には本人に手渡し、職員が服用できたかを確認している。		新しく処方された薬による利用者の変化を確認し、対応できるようにしている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	繊維質の多い食材や乳製品・水分を取り入れ、適度な運動を促がし、自然排便になるようにしている。気候のよい時期はできるだけ戸外に散歩に行くようしている。		水分摂取や排便記録に常に目を通し、左記内容の通り取り組んでいる。これからも予防と対応に取り組みたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後歯磨きの声かけをし、誘導を行っている。就寝前は義歯の洗浄を実施している。また、定期的に歯科衛生師による口腔ケアも行っている。		今後も継続して実践する。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日記録し、職員が情報を共有している。		定期的に管理栄養士の専門的アドバイスをもらっている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関して情報収集を行い、感染症対応マニュアルをつくり、早期発見早期対応に努めている。インフルエンザについては全職員、全利用者に対して予防接種を受けてもらっている。		今後も継続して実践する。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板やふきんなどは毎日漂白し、清潔を保っている。冷蔵庫や冷凍庫の点検も毎日実施している。		新鮮で安全な食材を日々調達するよう心掛けている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	明るい雰囲気のある玄関になるよう花を生けたり、その時々飾りや植木鉢を置いたり、玄関先にプランターを置くなど季節感を演出している。		今後も継続して実践する。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに利用者の方の日々の写真や作品、季節の花を生けて、楽しく暮らせる雰囲気づくりをしている。		今後も継続して実践する。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	娯楽室や玄関には自由に座れる場所があり、一人で過ごしたり仲のよい利用者同士でくつろげるスペースがある。		空間を有効利用する為和室をフローリングにしソファを置いたところ、話をしたりテレビを見たり居眠りしたり、と、自由に過ごされている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族の写真や使い慣れた日用品やダンス、鏡台、椅子などがあり、自宅にいるような気持ちで過ごしている。		今後も継続して実践する。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝、掃除の時には全室換気を行っている。冷暖房については、冬22℃夏28℃を目安に利用者の状態によって調節している。		2時間毎の換気を目指している。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせて手すりや浴室、トイレ、廊下などの居住環境が適しているかを見直し、安全確保と自立への配慮をしている。		今後も継続して実践する。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	分かる力を追求し、状況に合わせて環境整備に努めている。		今後も継続して実践する。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭に季節の花や野菜を植えたり、ベンチを置いてくつろげるスペースを設けている。夏は花火、秋には焼きいも、獅子舞など楽しんでいただいている。		夏は朝・夕、冬は日中に外気浴や散歩を実施している。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input checked="" type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input checked="" type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input checked="" type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者の方がその人らしく、穏やかに過ごしていただくように、また残存機能を活かして生き生きとした生活が送れるようにする。方法として①本人および家族の方とよく話し合いそのことについてよく理解し支援する。②生活体験・趣味などを活かし、個々の立場に立った支援をする。③人とのかかわりを大切にし、近隣の人々との交わりができるよう支援する。④医療体制を確立し、病気の早期発見・予防に努める。⑤チームケアをモットーとし、職員が共通理解の基に一丸となって支援する。